

西東京市第 2 次環境基本計画後期計画策定の方向性について（案）

◆西東京市第 2 次環境基本計画の構成を踏襲します。

本計画は、基本的に西東京市第 2 次環境基本計画（以下、「第 2 次計画」という。）の構成を生かした構成とし、必要な見直しを行っていく。

◆西東京市地球温暖化対策地域推進計画を包含した計画とします。

別計画である西東京市地球温暖化対策地域推進計画（以下、「地域推進計画」という。）を本計画の中に盛り込むことで、地球温暖化対策のさらなる推進に取り組める計画とする。

◆社会情勢等を踏まえた計画とします。

世界的な潮流である SDGs の考えを計画に反映するとともに、国の第五次環境基本計画との整合等、近年の社会情勢を踏まえた見直しを行う。

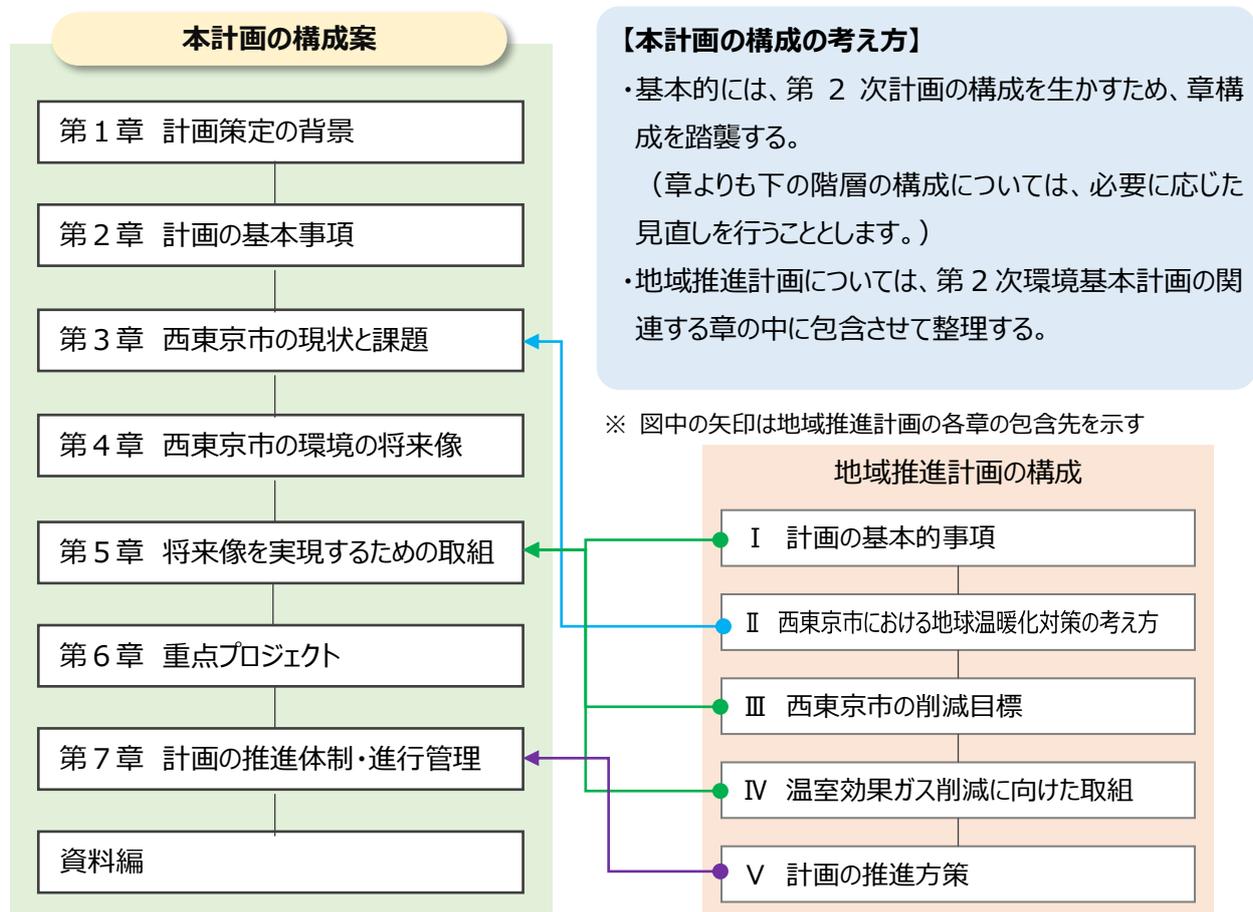
◆施策の進捗や市民・事業者の意向を盛り込みます。

第 2 次環境基本計画の進捗状況や市民アンケート、団体・事業者ヒアリングの結果を基に、課題や施策の見直しを行う。

◆わかりやすさに配慮した計画とします。

2 つの計画を合わせることで煩雑になりがちな計画内容を、できるだけわかりやすい構成に整理する。また、トピックス、写真などを追加し、読みやすさ、見やすさに配慮した計画内容とする。

計画の構成イメージ



近年の環境問題に関連する社会情勢について

社会の持続可能性

- ・様々な課題を克服した持続可能な開発を目指して、2015 年、国連サミットにおいて持続可能な開発目標（SDGs）を含む「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が採択された。
- ・SDGs は「誰も取り残さない」という理念のもと、2030 年を期限とした 17 の目標、169 のターゲットを設定している。
- ・目標達成のためには、先進国、発展途上国の別なく、全ての国が、様々な関係者と協力して取組を進めることが求められており、自治体レベルでも取り組んでいく必要がある。



SDGs のロゴ 出典:国際連合広報センター(2018))

地球温暖化問題

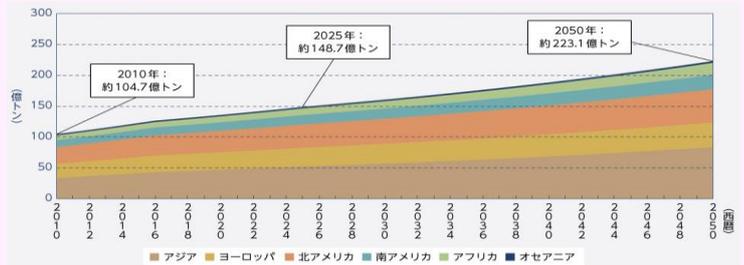
- ・1880～2012 年の傾向では、世界の平均気温は 0.85℃上昇、2100 年に地球の気温が最大で 4.8℃上昇すると予測されている。
- ・IPCC の第 5 次調査評価報告書では、度重なる異常気象は、人為的な活動による温室効果ガスの増加に伴う気候変動の原因であると示されている。
- ・国は温室効果ガスの排出削減目標として 2030 年度に 2013 年度比マイナス 26.0%の水準に設定したことから、この目標達成に向けた取組が必要である。
- ・エネルギーについては、省エネルギーで 17%程度削減、再生可能エネルギーで 22～24%創出する必要がある。



出典：全国地球温暖化防止活動推進センター

資源や食料需給のひっ迫

- ・世界の総人口は 2050 年には 2000 年比で約 1.6 倍の 97 億人に達する見込みである。
- ・今後世界の資源や食料などの需給はひっ迫し、資源の大半を諸外国に依存する日本は大きな影響を受ける。
- ・国内ではこれまで取組が遅れていたリデュース・リユース、小型家電リサイクル、食品ロス対策等の推進が必要である。



出典：世界の廃棄物量の発生予測 出典：環境白書（平成 23 年度版）

生物多様性の危機

- ・現代は第 6 の大量絶滅時代といわれ、絶滅速度が速く、人間の活動が絶滅の主な原因である。
- ・1975 年から 2000 年までに約 4 万種もの生物が絶滅したと推計される。
- ・生物多様性の損失は人間の生存基盤へも影響を与えることから、保全するために 4 つの危機への対策が必要である。

- 開発や乱獲による種の減少・絶滅、生息・生育地の減少
- 里地里山などの手入れ不足による自然の質の変化
- 外来種などの持ち込み、化学物質の出現による生態系のかく乱
- 地球温暖化



資料：国立環境研究所